

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

医療が変わる！ 医療安全全国共同行動

“いのちをまもるパートナーズ”



医療安全全国共同行動の提案

あいにく医療事故によって、いま医療に対する信頼が大きく揺らいでいます。

医療従事者は医療の安全確保に日々努力を重ねています。しかし、欧米の調査によると入院患者の3%~16%において医療行為に伴う何らかの傷害(有害事象)が生じており、米国医学研究所は、そのうち半数強は回避可能なものでこれらの傷害が関与して死亡したと推定される死亡の数は年間44,000人から98,000人に上ると報告し、医療システムの質と安全を早急に改善する必要があることを指摘しました。日本の調査では、入院患者の6.8%で有害事象が生じていることが報告されており、これはカナダでの発生頻度とほぼ同じであることを示します。

医療過程で生じる有害事象には本来回避可能なものと不可避のものがありますが、これほど多くの有害事象が多発する現実を直視すれば、これら多発する有害事象を可能な限り低減させ、かつ有害事象から患者さんの生命を守るために全力を尽くすことは医療に関わるすべての人々の責務であります。

米国では医療質改善研究所とその呼びかけに応じた多数の団体の協力により、“10万人の命を救え”キャンペーン(100K Lives Campaign)が展開され、全米で約5500ある病院のうち3100の病院(急性期病床数の78%に相当)が自主的に参加して改善に取り組みました。その結果、18か月間のキャンペーン期間中に入院中の死亡数を大幅に減らすことに成功したと報告しています。

いまこそ医療者は、職種や立場の壁を超え、医療を担う病院と医療を支えるさまざまな団体・学会・行政・地域社会が一致協力して医療事故の防止に総力をあげて取り組むべきと考えますことから、医療安全全国共同行動(“いのちをまもるパートナーズ”キャンペーン/日本版100K Lives Campaign)の実施を提案いたします。

同プロジェクトは、平成20年5月から2年間をキャンペーン期間として全国の病院が自主的に参加登録を行い、地域の病院が互いに協力しながら医療の質・安全の確保と向上をめざす8つの目標について組織的な活動を実施し、参加団体は活動の効果的な実施に必要な支援を提供します。

全国の病院はもとより、医療に関わるすべての人々と、それぞれの立場から医療の質・安全の向上をめざすさまざまな団体にこのプロジェクトにご参加いただき、ともに力を合わせて医療事故の防止と信頼される医療の確立を実現することを呼びかけます。



医療の質・安全学会理事長 高久 史磨
日本病院団体協議会議長 小山 信彌
日本医師会会長 唐澤 祥人
日本歯科医師会会長 大久保満男
日本看護協会会長 久常 節子
日本臨床工学技士会会長 川崎 忠行
日本病院薬剤師会会長 堀内 龍也

医療安全全国共同行動 参加団体・協力団体

医療の質・安全学会
日本病院団体協議会
国立大学附属病院長会議
独立行政法人国立病院機構
全国公私病院連盟
社団法人全国自治体病院協議会
社団法人全日本病院協会
社団法人日本医療法人協会
社団法人日本私立医科大学協会
社団法人日本精神科病院協会
社団法人日本病院会
一般社団法人
日本慢性期医療協会
独立行政法人労働者
健康福祉機構

日本医師会
日本歯科医師会
日本看護協会
日本薬剤師会
日本病院薬剤師会
日本臨床工学技士会
全国医学部長病院長会議
日本放射線技師会
全国国立病院療養所
放射線技師会
日本臨床衛生検査技師会
日本赤十字社
恩賜財団済生会
国家公務員共済組合連合会
全国社会保険協会連合会

日本診療情報管理学会
日本医療マネジメント学会
医療のTQM推進協議会
日本医療教授システム学会
日本医療学会
日本品質管理学会
日本専門医制評価・認定機構
卒後臨床研修評価機構
医薬品医療機器総合機構
総合安全工学研究所
日本看護学会協議会
日本看護系大学協議会
日本医学会
日本内科学会
日本外科学会

日本小児科学会
日本救急医学会
日本麻酔科学会
日本集中治療医学会
日本感染学会
日本環境感染学会
日本化学療法学会
日本血栓止血学会
日本静脈経腸栄養学会
日本消化器科学会
日本大腸肛門病学会
日本胸部外科学会
日本泌尿器科学会
日本癌治療学会
日本放射線腫瘍学会

日本医学放射線学会
日本形成外科学会
日本脳神経外科学会
日本神経学会
日本口腔科学会
日本超音波医学会
日本小児神経学会
日本インターベンショナル
ラジオロジー学会
日本高血圧学会
日本自律神経学会
日本脳神経血管内治療学会
日本人工臓器学会
日本臨床検査医学会
日本透析医学会

日本ハンセン病学会
日本呼吸療法医学会
日本周産期・新生児医学会
肺塞栓症研究会
日本口蓋科学会
日本小児外科学会
日本臨床薬理学会
日本臨床救急医学会
日本整形外科学会
日本産科婦人科学会
(平成22年1月1日時点 順不同)

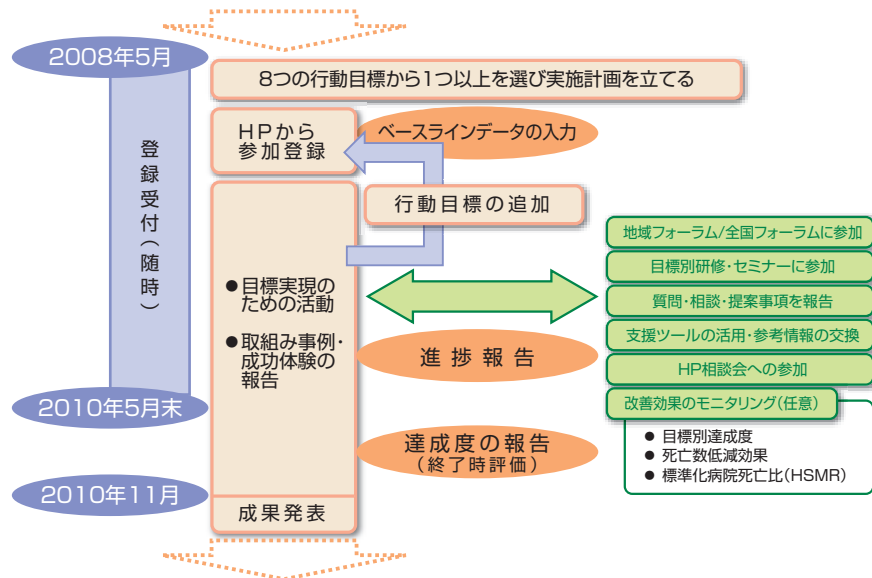
<http://kyodokodo.jp/>

医療が変わる！医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”

8つの行動目標



共同行動への参加登録方法



“Medical Harm”

(医療に伴う傷害／有害事象)

防止可能なものか、過失によるものか、入院後に生じたものか否かにかかわらず、医療の結果として、あるいは医療が関与して(必要な医療が行われなかった場合を含む)生じる、意図しない身体的損傷で、そのために観察、治療あるいは入院が必要となるもの、あるいは死に至るもの。

(by Institute of Healthcare Improvement)

有害事象の発生率

調査を実施した国	対象病院と対象年度	有害事象発生率
米国(ニューヨーク州)	急性期病院(1984)	3.8%
米国(ユタ、コロラド州)	急性期病院(1992)	3.2%
オーストラリア	急性期病院(1992)	16.6%
英国	急性期病院(1999-00)	11.7%
デンマーク	急性期病院(1998)	9.0%
ニュージーランド	急性期医療(1998)	12.9%
カナダ	急性期・地域病院(2001)	7.5%

(出典:WHO/World Alliance for Patient Safety “Forward Programme 2005”)

日本	急性期病院(2002-03)	6.8%
----	----------------	------

(出典:厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療事故の全国的発生頻度に関する研究(主任研究者 塚秀人)」平成15年度～17年度総合研究報告書、2006年3月)

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”事務局 E-mail:secretariat@kyodokodo.jp

〒102-0082 東京都千代田区一番町13-8 一番町KKビル3階 社団法人日本病院会内 TEL. 03-6380-9370 FAX. 03-6380-9371

●医療安全全国フォーラム 2010年5月15日(土) 於:ベルサール九段

www.bellesalle.co.jp/bs_kudan/